

たかさご史話 28 郵便局の開設

明治維新は、江戸時代の人々の生活を大きく変えていく社会的変革でした。

戸籍・学校・徴兵・納税などに関する新しい制度が導入されてきたほか、鉄道・電信といった近代的な輸送通信手段の整備も始まりました。

郵便制度もまた、近代的な統一国家の確立をはかる一環として、明治政府が維新後ただちに整備を始めた通信事業のひとつです。

こうした政府の意向をうけて、各地では郵便局の設置が進められていきます。

『加古郡誌』や『増訂印南郡誌』には、早くも明治四（一八七一）年十二月に高砂郵便局が開設され、その翌年には、大塩村（現姫路市）と曾根村（現高砂市）に郵便局が設置されたことが記されています。現市域が飾磨県に属していた頃のことです。

また、飾磨県が兵庫県に合併させられ、現在の兵庫県域

が確定した明治九（一八七六）年の時点では、加古郡では高砂・荒井など七か所、印南郡では曾根など五か所に増設されていました。

このうち、高砂と曾根は四等郵便局で、その他は五等郵便局に位置づけられています。高砂と曾根が、加古郡と印南郡の中心的位置にあったことがうかがえます。また、高砂郵便局は為替局としての仕事も行っていました。

以上のような制度面での変遷は、兵庫県立図書館で閲覧できる「兵庫県史料」などでよくわかりますが、各郵便局での業務内容については、不明な点が少なくありません。今後高砂市史の編さんを進める中で、地域の史料を掘り起こしていき、こうした点も明らかにしていかなければならないと思っています。

（高砂市史編さん専門委員

松下 孝昭）